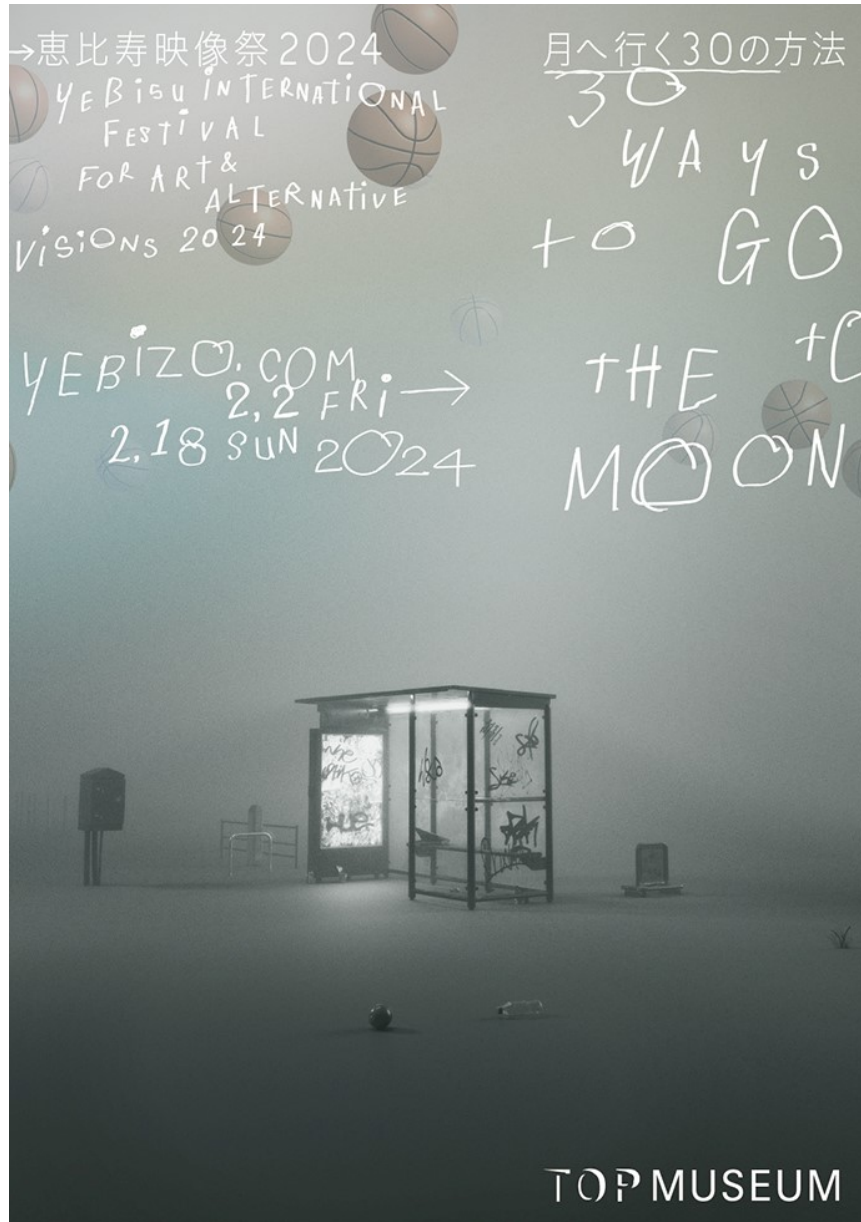


開催概要・総合テーマおよび新たな取り組み発表

恵比寿映像祭 2024 「月へ行く 30 の方法」



2024 年 2 月 2 日 (金) ~ 2 月 18 日 (日) [15 日間]
東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場ほか
※コミッション・プロジェクト (3 階展示室) のみ 3 月 24 日 (日) まで

TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

恵比寿映像祭 2024 について

東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社は 2024 年 2 月 2 日（金）～2 月 18 日（日）の 15 日間にわたり、東京都写真美術館を中心に、恵比寿ガーデンプレイス センター広場など多数の会場で恵比寿映像祭 2024 「月へ行く 30 の方法」を開催します。

恵比寿映像祭では、映像という言葉に限定的に用いるのではなく、映像をめぐる様々な選択肢に目をむけ、多様化する映像表現と映像受容の在り方を問い直してきました。芸術と映像が人にもたらしているオルタナティブな価値観（ヴィジョンズ）の生成を促し、存続させていくためのプラットフォームとして、発信を続けています。毎回テーマをかかげ、「映像とは何か」という問いを投げかけながら、国内外の映像表現を紹介し歳月を重ねるなかで、映像を取り巻く状況は大きく変化し、映像を規定する枠組みやテクノロジーも多様化しています。

第 16 回を迎える恵比寿映像祭 2024 では、前回から加わった「コミッション・プロジェクト（3 階展示室）」とともに、テーマと結びついた、継続的なプラットフォームとしての恵比寿映像祭の役割をさらに強化していきます。

総合テーマ

「月へ行く 30 の方法」

30 Ways to Go to the Moon

アメリカのアポロ 11 号による月面着陸から半世紀以上が経ち、人々が気軽に月へ行くことも技術的に不可能ではなくなりつつあります。しかし、最先端の科学技術や理論以上に、一見それとは結びつかないようなアーティストたちの思考や実践が、新しい発見や創造につながり、月へ向かうための大きなヒントになるかもしれません。

恵比寿映像祭 2024 では、「月へ行く方法」という命題を、写真や映像を主とした様々な表現によってひも解き、アーティストだけでなく、そこに参加する観客とともに考えていく試みを行います。歴史的な作品から現代作品まで、異なる角度からイメージの可能性を探ります。

※総合テーマは、土屋信子「30 Ways To Go To The Moon/月へ行く 30 の方法」展（2018 年）のタイトルより引用

2 階展示室では、東京都写真美術館のコレクションを含む、多様な社会的・文化的背景を持った作家たちの映像、写真、資料などを展覧し、そこから導かれる集合的知性によって我々の未来の在り方を探ります。また展示室の中央では、連日、パフォーマンス、トーク、ディスカッション、ワークショップなどのプログラムを行い、作家と来場者がコミュニケーションを交わし、ともに思考を重ねていく場を生み出していきます。ひとりひとりが出来事を目撃者や体験者となることで、記録の装置（メディア）、記憶の図鑑となるような鑑賞体験を目指します。

地下 1 階展示室は、科学や理論では解明しきれない未知なる可能性や思考を示唆する作品やプロジェクトを紹介し、2 階を集合知的な空間とするならば、地下 1 階は、その集合知から学びながらも、さらなる想像力によって飛躍する果てしない未来への旅のスタート地点と言えるかもしれません。

今回の恵比寿映像祭の特徴の一つは、映像の一回性に着目している点です。映像という複製芸術でありながら、反復や非場所という性質とは正反対である一回性にこだわった作品、パフォーマンスやユニークピース、すべてを目撃（鑑賞）することができないような時間的な奥行きや限界に取り組む作品、また映像制作のプロセスに身体的な行為や思考を作用させることで、その場で完成し、消滅していくような作品を紹介する予定です。

そしてこれまで以上に、上映プログラムと展示プログラムを接続し、双方向の横断を試みたプログラムづくりを展開します。

新たな取り組み

1. 対話を生み出すための空間構成とコレクション活用

恵比寿映像祭 2024 では、映像の一回性に着目した観客との対話を生み出す新たな空間構成の展開を試みます。また、総合テーマ「月へ行く 30 の方法」の文脈から、現代作品と東京都写真美術館のコレクション作品を結びつけることで、作品の背後にある歴史や思想を遡り、現代を考察していきます。

2. 「恵比寿映像祭 2024 コミッション・プロジェクト」

恵比寿映像祭 2023 から始まった、日本を拠点に活動する新進アーティストを選出し、制作委嘱した映像作品を“新たな恵比寿映像祭”の成果として発表する「コミッション・プロジェクト」。恵比寿映像祭 2024 では、前回特別賞を受賞した 2 名のアーティストである荒木悠、金仁淑（キム・インスク）による特別展示を、総合テーマ「月へ行く 30 の方法」と連動させながら具現化します。また会期中には、映像表現に通じた国内外の審査委員 5 名によって、第 2 回コミッション・プロジェクトを委嘱する 4 名のアーティスト（ファイナリスト）を選出し、その結果を発表します。

3. シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] との連携

アートとデジタルテクノロジーを通じて、人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点「シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]」（2022 年開設）と連携し、恵比寿ガーデンプレイスの中心に位置するセンター広場で、ジェネラティブ・アート作品等の特別プログラムの上映を行います。個人によるオンラインの表現と都市空間をダイレクトに結びつけ、映像メディアの都市・社会における可能性を提示します。

参加作家 (予定)

荒木悠 | Yu ARAKI ●コミッション・プロジェクト特別展示

ワシントン大学で彫刻を、東京藝術大学では映像を学ぶ。日英の通訳業を挫折後、誤訳に着目した制作を始める。英語圏において、「 casting」と呼ばれていることを起点に、オリジナルからコピーが作られる過程で生じる差異を再現・再演・再生といった表現手法で探究している。2023 年に発表した《仮面の正体 (海賊盤)》で恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト特別賞を受賞。本作は同年、台湾現代文化実験場 (C-LAB) でのグループ展「Memory Palace in Ruins」にて再展示された。



《仮面の正体 (海賊盤)》2023 年
恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト
Photo: 井上佐由紀

金仁淑 | KIM Insook ●コミッション・プロジェクト特別展示

大阪府生まれ。2003 年に留学のため韓国へ移住。韓国、ドイツでの滞在制作を経て 2018 年から東京とソウルを拠点に制作活動を展開。多様な「個」の日常や記憶、歴史、伝統、関係性、共同体の中に存在する個々のアイデンティティなどをテーマに、移民や地域のコミュニティの人々とコミュニケーションを基盤としたプロジェクトを行う。2008 年に光州市立美術館で個展「sweet hours」を開催。国立現代美術館(韓国)、ソウル市立美術館、森美術館、大邱フォトビエンナーレなど、国内外の芸術祭や企画展で作品を発表。



《Eye to Eye》2023 年
恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト
Photo: 新井孝明

青木陵子+伊藤存 | AOKI Ryoko + ITO Zon

青木陵子 (1973 年兵庫県生まれ) と伊藤存 (1971 年大阪府生まれ) は、ともに京都府在住。それぞれの作品制作と並行しながら、2000 年頃から共同でアニメーションの制作も行っている。二人がコラボレーションした主な展覧会に、横浜トリエンナーレ 2001、「世界制作の方法」(国立国際美術館、2011 年)、「TWO STICKS」(ヴロツワフ建築博物館、2015 年)、Reborn-Art Festival 2017, 2019 (石巻)、「変化する自由分子の WORKSHOP」(ワタリウム美術館、2020 年) など。



《9 歳までの境地》2011 年、国立国際美術館
Photo: 福永一夫

荒川ナッシュ医 | Ei ARAKAWA-NASH

1977 年福島県生まれ。ロサンゼルスを拠点に活動するパフォーマンス作家。荒川ナッシュのパフォーマンスは、他者の作品を積極的に引用し、ノン・パフォーマー、美術史家、観客などの多彩な人々との共同作業の交差する場を生み出し続けることで、相互主観的な作家性を維持しようと試みている。具体や実験工房をはじめ、東京や京都の初期ビデオ・アーティストなどの日本のコレクティヴを題材としたミュージカル・コメディも不定期に制作。アート・センター・カレッジ・オブ・デザイン（ロサンゼルス、パサデナ）大学院アート学科教授。



《Mega Please Draw Freely》2021 年
テート・モダン、ロンドン
Photo: Rikard Österlund

コリー・アーケンジエル | Cory ARCANGEL

1978 年ニューヨーク州バッファロー生まれ、ノルウェー・スタヴァンゲル在住。アーティスト、作曲家として活動。新旧のデジタル技術の可能性と限界を探求し、それら技術が持つ陳腐さ、ユーモア、美的属性、そして時に不気味な影響を現代生活に浮かび上がらせることを試みている。彼の作品は、一部考古学的方法論を応用しながらビデオ・ゲーム、ソフトウェア、ソーシャルメディア、機械学習などの構造的言語を探求し、暗号化、ハッキングし、テーマや媒体として扱う。ハンブルク・クンストフェライン、ホイットニー美術館（ニューヨーク）、カーネギー美術館（ピッツバーグ）などで個展が開催されている。



《Drei Klavierstücke op.11》2009 年
Photo: Arcangel Studio
©Cory Arcangel

フェンバーガーハウス／ロジャー・マクドナルド | Fenberger House / Roger MCDONALD

「フェンバーガーハウス」は国内外の国際展や展覧会企画に関わってきたインディペンデント・キュレーターのロジャー・マクドナルドによって、2014 年に実験的なハウスミュージアムとして長野県佐久市に設立された。マクドナルドは密教、サイケデリック研究、神智学、メディテーション、儀式など、芸術の起源や意識への作用に関心を寄せ、思考実践の場として「フェンバーガーハウス」で展覧会や合宿、ワークショップなどを開催し、近年は気候危機に関する研究も行っている。また彼は NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] 設立メンバーの一人でもある。



「フェンバーガーハウス」2013 年
Dome Temple installation in the Dome
Photo: ロジャー・マクドナルド

リッスン・トゥ・ザ・シティ | Listen to the City

リッスン・トゥ・ザ・シティは、2009 年韓国で創設された、芸術、都市生活、調査に関するコレクティブ。都市研究者、デザイナー、建築家、映画制作者、活動家で構成され、そのメンバーシップは柔軟で開かれている。ディレクターであるパク・ウンソンはアートと都市計画を学び、主要メンバーの一人であるヒョンウクは反ジェントリフィケーションの活動家である。韓国の様々なグラフィックデザイナーや、英国リバプールを拠点とするアート&建築集団 Static と協働。韓国の行き過ぎた発展と結びついた環境的・社会的無責任と文化的多様性の破壊について問いを投げかけることから創造活動を開始し、2009 年からは、オルタナティブな都市・建築雑誌『Urban Drawings』を発行している。



『内城川 (Naeseong River) の動植物図鑑』より
 ©Listen to the City

トレイシー・モファット | Tracey MOFFATT

1960 年ブリスベン (オーストラリア) 生まれ、シドニーとニューヨークを拠点に活動。オーストラリアの先住民族であるアボリジナルのルーツを持つモファットは、文化的かつ社会的な側面から、人種、ジェンダー、アイデンティティといった様々な問題に焦点をあて、独自の物語性を帯びた写真や映像、映画を制作する。1989 年にオーストラリア写真センターで初の個展を開催して以来、世界各地の美術館で多くの展覧会に参加している。



《オズの魔法使い、1956 年》
 〈一生の傷〉より、1994 年、東京都写真美術館蔵

中谷美二子 | NAKAYA Fujiko

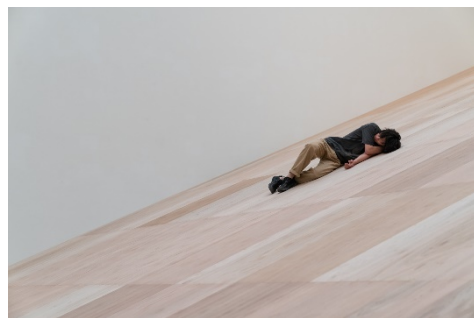
北海道生まれ、東京都在住。1970 年大阪万博のペプシ館で「霧の彫刻」を初めて制作、以降純粋な水霧を用いた環境彫刻、インスタレーション、公園設計、舞台作品等を世界各地で発表。1972 年「ビデオひろば」の結成に参加し、自らもビデオ作品を発表。1980 年に「ビデオギャラリーSCAN」を開設するなど、日本におけるビデオ・アートのパイオニアとしても知られる。



《卵の静力学》1973 年
 ©Fujiko Nakaya
 東京都写真美術館蔵

関川航平 | SEKIGAWA Kohei

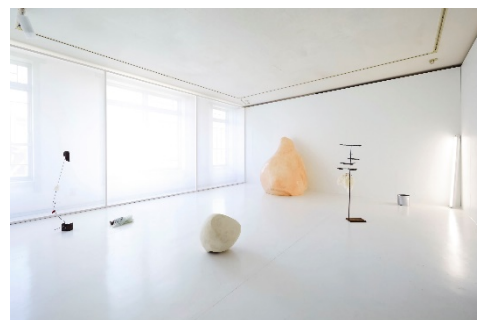
1990 年宮城県生まれ。自身の身体を使った行為やインスタレーション、ドローイング、デザインなどの多岐にわたる手法を用いて作品を制作。「つくること」や「見ること」のなかで何が起きているのかを考え続けている。主な展覧会に「吹けば風」(豊田市美術館、2023 年)、「あざみ野コンテンポラリー vol.11 関川航平 今日」(横浜市民ギャラリーあざみ野、2020 年)、「THEY DO NOT UNDERSTAND EACH OTHER」(大館當代美術館、香港、2020 年)、「開館 40 周年記念展 トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」(国立国際美術館、2018 年) など。



《女》2023 年、豊田市美術館
Photo：中村マユ

土屋信子 | TSUCHIYA Nobuko

神奈川県生まれ。2001 年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジポストグラデュエートコース修了。主な展覧会に「Stay as a wave」(SCAI THE BATHHOUSE、2023 年)、「30 Ways to Go to the Moon」(Mostyn、ウェールズ、2019 年)、「六本木クロッシング 2019 展：つないでみる」(森美術館、2019 年)、「Clandestine」(第 50 回ヴェネツィア・ビエンナーレ、2003 年) など。



「マツモト建築芸術祭」展示風景、2022 年
Photo：木内和美

エヴェリン・タオチェン・ワン (王伊美蓉韜程) | Evelyn Taocheng WANG

1981 年中国・成都生まれ、オランダ・ロッテルダム在住。2006 年南京師範大学で絵画を学んだのち、ドイツに渡り、2012 年シュテューデル美術大学で学ぶ。絵画、パフォーマンス、インスタレーション、書道などの様々な表現手法を用いて、文化的アイデンティティを横断する作品を幅広く制作。主な展覧会に「An Equivocal Contrast」(上海外灘美術館、2023 年)、「Norwegian Music in Dutch Window」(KAYOKOYUKI、2022 年) など。



《A Scripted Impression》パフォーマンス写真
2022 年 ©Sang-tae Kim
Courtesy Busan Biennale Organizing Committee

※なお、すべての図版は参考図版です。

恵比寿映像祭 2024 コミッション・プロジェクト

コミッション・プロジェクトについて

恵比寿映像祭における東京都写真美術館の新たな事業として、国際的な発信および新しい文化価値の醸成を目的に、恵比寿映像祭 2023 から始まった制作委嘱事業が「コミッション・プロジェクト」です。映像祭などを通じてこれまでに構築した国内外のネットワークを活用し、日本を拠点に活動する新進アーティストの中からファイナリストを選出。選ばれたアーティストに制作委嘱した映像作品を、“新たな恵比寿映像祭”の成果として発表します。その作品を将来的に国内外の文化施設や文化機関で紹介することで、アーティストの創造活動を支援するスキームを作っていきます。

第 1 回特別賞受賞者の特別展示

第 1 回で特別賞を受賞した荒木悠、金仁淑（キム・インスク）による展示を、総合テーマ「月へ行く 30 の方法」と連動させながら具現化します。

会期：2024 年 2 月 2 日（金）～2 月 18 日（日）10:00-20:00（18 日 [日] は 18:00 まで）

2 月 20 日（火）～3 月 24 日（日）10:00-18:00（木・金は 20:00 まで）

※月曜休館〈ただし 12 日（月・振休）は開館し、13 日（火）休館〉、入館は閉館 30 分前まで
会場：東京都写真美術館 3F 展示室 料金：入場無料

出品作家：恵比寿映像祭 2023 特別賞受賞アーティスト 荒木悠、金仁淑（キム・インスク）



恵比寿映像祭 2023 特別賞受賞アーティストの
金仁淑（キム・インスク）氏と荒木悠氏（左から）

第 2 回ファイナリスト決定（会期中）

上記展示と同時に、映像表現に通じた国内外の有識者 5 名からなる審査会によって、会期中に 4 名のアーティストを選出する審査会を開催し、その結果を発表します。

- ・沖 啓介：メディア・アーティスト
- ・斉藤 綾子：映画研究者、明治学院大学教授
- ・レオナルド・バルトロメウス：山口情報芸術センター [YCAM]、Gudskul Ekosistem キュレーター
- ・メー・アードドン・インカワニット：映画・メディア研究者、キュレーター、ウェストミンスター大学教授
- ・田坂 博子：東京都写真美術館学芸員、恵比寿映像祭キュレーター

補足資料 恵比寿映像祭コミッション・プロジェクトサイクル

① 候補者の選出

候補者となるアーティストの選出について

東京都写真美術館学芸員の調査・研究、これまでの恵比寿映像祭のネットワークなどから、本プロジェクトで作品制作を委嘱するにふさわしい実績と力量を持つ、日本を拠点に活動するアーティストを取り上げます。前回に引き続き、「東京都写真美術館および審査運営事務局」により候補者となるアーティストを選出します。

審査運営事務局：特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/ エイト]

アーティスト選出条件

- ・ 恵比寿映像祭ならびに東京都写真美術館で蓄積されてきたネットワークを拡張していくことができるアーティストであること。
- ・ 新しい技術や表現方法だけでなく、各ライフステージのなかで多様な挑戦を実現できるアーティストであること。
- ・ 現在日本を居住地として活動を行っているアーティストであること。

② 審査会によるファイナリスト（4名）決定

ファイナリスト審査について

映像表現の動向に通じた国内外の有識者からなる審査会により、候補者の中から作品制作委嘱するファイナリスト（4名）を決定します。

審査基準

独創性に富み、企画、内容および技法が総合的に優れた映像作品であり、恵比寿映像祭での展示を実現できる計画性を有していること。新しい技術や表現方法だけでなく、映像表現の概念を拡張し、映像史に位置付けていくことが可能な作品であること。作品自体が、海外へ発信していくことができる固有性や接続性を有していること。

③ ファイナリストによる新作制作

ファイナリストとなったアーティストには、制作委嘱をし、新作の未発表作品を制作していただきます。展示、上映、オンラインなど、作品の最終形態については限定しません。

④ ファイナリストによる新作展示

⑤ 審査会による特別賞受賞者（1名）決定

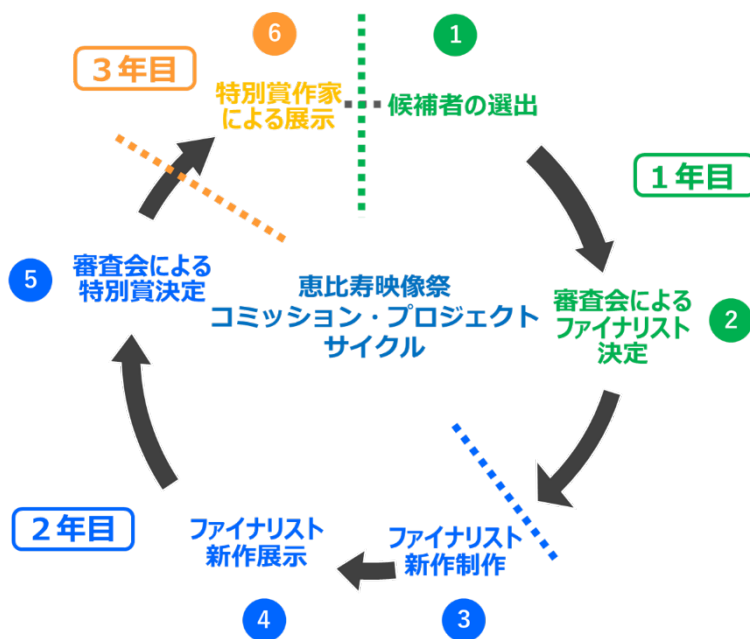
恵比寿映像祭で展示された新作から特別賞を決定する審査会を会期中に行います。

特別賞に選ばれたアーティストには、翌年の恵比寿映像祭で特別展示の機会を提供します。

⑥ 特別賞受賞アーティストによる翌年の「特別展示」

サイクル図

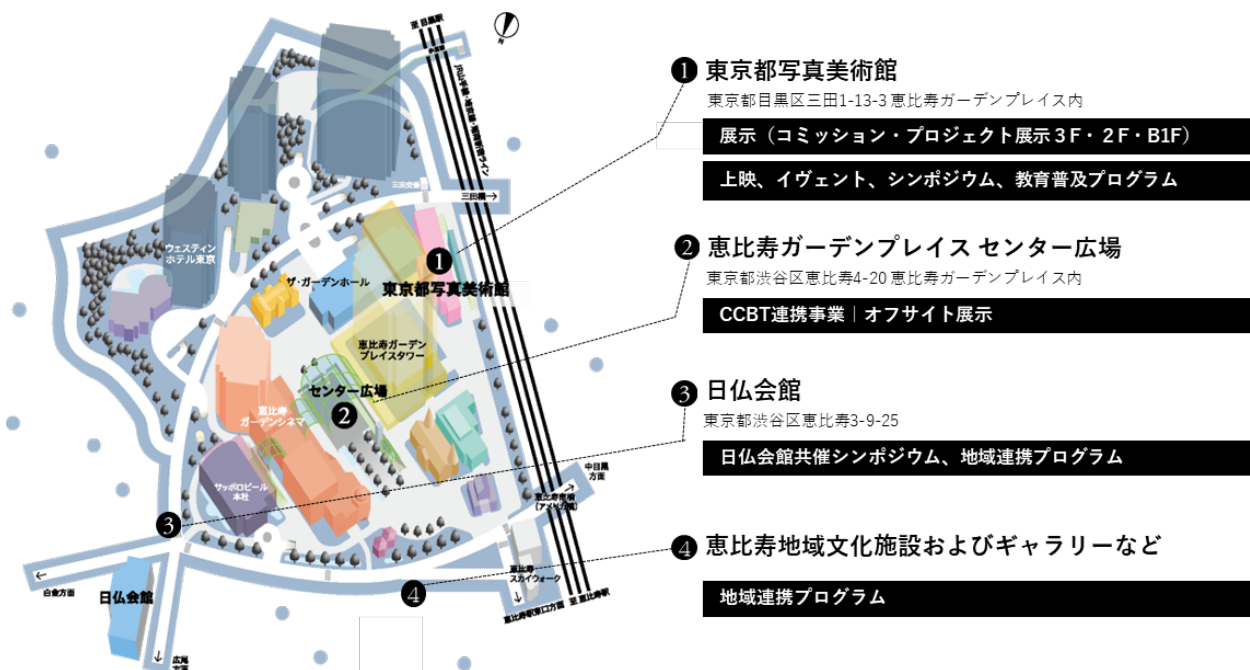
恵比寿映像祭 2024 より、コミッション・プロジェクトは、3年サイクルで実施していきます。ファイナリスト決定までの期間およびアーティストの作品制作期間を十分確保し、前回決定した特別賞アーティストの展示とファイナリストの審査、決定を恵比寿映像祭会期中に実施します。アーティストが飛躍していく様子をご期待ください。



開催概要

- 名称 | 恵比寿映像祭 2024 「月へ行く 30 の方法」
 Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2024
 “30 Ways to Go to the Moon”
- 会期 | 2024 年 2 月 2 日 (金) ~ 2 月 18 日 (日) [15 日間]
 月曜休館 (ただし 12 日 (月・振休) は開館し、13 日 (火) 休館)
 ※コミッション・プロジェクト (3F 展示室) のみ 3 月 24 日 (日) まで
- 時間 | 10:00-20:00 (18 日は 18:00 まで)
 ※2 月 20 日 (火) ~ 3 月 24 日 (日) のコミッション・プロジェクトは 10:00-18:00 (木・金は 20:00 まで)
 ※入館は閉館の 30 分前まで
- 会場 | 東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場、地域連携各所ほか
 主催 | 東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/日本経済新聞社
 料金 | 入場無料 ※一部のプログラム (上映など) は有料
 公式 HP | www.yebizo.com
 公式 SNS | X (旧 Twitter) : twitter.com/topmuseum Instagram : instagram.com/yebizo
 お問い合わせ | 03-3280-0099 (代表)

会場構成 (予定)



添付資料 1

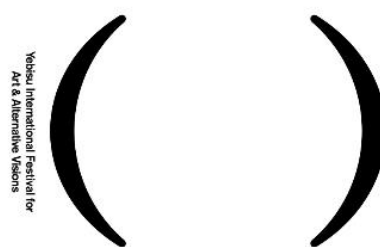
◆恵比寿映像祭とは

恵比寿映像祭は、2009 年の第 1 回開催以来、年に一度恵比寿の地で、展示、上映、ライブ・パフォーマンス、トーク・セッションなどを複合的に行ってきた映像とアートの国際フェスティバルです。映像分野における創造活動の活性化と、映像表現やメディアの発展をいかに育み、継承していくかという課題について広く共有する場となることを目指してきました。近年では、地域とのつながりや国際的なネットワークを強化し、一層の充実と発展をはかっています。

◆ロゴについて

映像をめぐる、ひとつではない答えをみんなで探していこう！
という「恵比寿映像祭」の基本姿勢を、オープンなフレームとしてのカッコに託しました。

映像というカッコにあえて入れてみることで、
はじめて見えてくるものがある
何かを限定するためではなく、
いろいろなものを出し入れして、よく見るためのカッコです。



添付資料 2 予告 | プログラムの詳細は 12 月中旬に発表予定です。どうぞご期待ください。

- コミッション・プロジェクト | 東京都写真美術館 3F 展示室
東京都写真美術館の新たな事業として、恵比寿映像祭 2023 から始まった、日本を拠点に活動するアーティストを選出し、制作委嘱した映像作品を“新たな恵比寿映像祭”の成果として発表する「コミッション・プロジェクト」。恵比寿映像祭 2024 では、前回特別賞を受賞した荒木悠、金仁淑（キム・インスク）2名のアーティストによる展示を、総合テーマ「月へ行く 30 の方法」と連動させながら具現化します。また同時に、恵比寿映像祭 2023 に引き続き映像表現に通じた国内外の審査委員 5 名によって、会期中に 4 名のアーティストを選出し、その結果を発表します。
- 展示 | 東京都写真美術館 2F・B1F 展示室
総合テーマ「月へ行く 30 の方法」を、写真や映像を主とした様々な表現によってひも解き、アーティストだけでなく、鑑賞者の参加によってともに考えていく試みを行います。東京都写真美術館の 2F 展示室では、東京都写真美術館のコレクションを含む、映像、写真、資料などを展示し、中央では連日、パフォーマンス、トーク、ディスカッション、ワークショップなどのプログラムを開催します。B1F 展示室では、科学や理論では解明しきれない未知なる可能性や思考を示唆する作品やプロジェクトを紹介し、2F 展示室で生まれる対話への応答を試みます。

- 上映 | 東京都写真美術館 1F ホール
東京都写真美術館 1F ホールを会場に、恵比寿映像祭のために特別に編まれた上映プログラムを連日お届けします。劇映画から、実験映画、ドキュメンタリー、アニメーション、現代美術作品まで、日本初公開作品を含め、国内外から多様な作品が集います。上映後には、監督やゲストを招きトーク・セッションを開催します。
- ライヴ・イベント | 東京都写真美術館 2F 展示室・ロビーほか
東京都写真美術館 2F 展示室やロビーを会場に、従来の映像の枠を超えたパフォーマンスを行います。いつもとは違う、美術館での新しい体験をお楽しみください。
- 教育普及プログラム | 東京都写真美術館 1F スタジオほか
教育普及プログラムは、多様な方が参加しやすいプログラムをはじめ、恵比寿映像祭をより身近に、より深く楽しんでいただくため、様々なプログラムをご用意しています。
- オフサイト展示 | 恵比寿ガーデンプレイス センター広場
恵比寿ガーデンプレイスの中心に位置するセンター広場には、訪れた人々すべてを迎える大型ビジョンが登場します。恵比寿映像祭 2024 では、シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] と連携し、特別プログラムの上映を行います。
- 地域連携プログラム | 地域連携各所
地域連携プログラムでは、恵比寿近隣の地域で活躍するアートの担い手が総合テーマを共有して、それぞれの会場で選りすぐりの展覧会ほか多彩なイベントを開催します。加えて各施設をめぐるシールラリーを通じて、フェスティバルを楽しむきっかけをつくります。シールを集めると記念品がもらえます。ぜひご参加ください。
- シンポジウム／スペシャルトークセッション | 東京都写真美術館 1F ホール
総合テーマ「月へ行く 30 の方法」や映像アーカイブを掘り下げるシンポジウムやトークセッションを、多彩な登壇者を迎えて開催します。

恵比寿映像祭 2024 プレスお問い合わせ

※ 報道・媒体関係者様のお問い合わせに限らせていただきます

恵比寿映像祭広報担当（共同ピーアール株式会社）：田中（たなか）、神（じん）、西室（にしむろ）

TEL：03-6264-2382

E-mail：yebizo2024-pr@kyodo-pr.co.jp

携帯：080-8866-6183（田中）、090-5559-2142（神）、080-8072-3133（西室）

※本リリース内で使用している写真を広報用画像としてご用意しています。

広報用図版申請フォーム：<https://tayori.com/f/yebizo2024>

より申請をいただくか、

①ご所属 ②貴媒体名 ③掲載予定時期 ④ご希望画像の作家・作品名などを記入のうえ、
上記のプレス担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

*図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

*図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

※事業は諸般の事情により変更することがございます。あらかじめご了承ください。

※展覧会等の詳細、最新の情報は恵比寿映像祭ホームページをご確認ください。

恵比寿映像祭ホームページ：<https://www.yebizo.com>

TEL：03-3280-0099 / FAX：03-3280-0033

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM